

2023年(令和5年)5月20日 土曜日

外国人向け見学会復活

飛騨市・渡辺酒造店

老舗の酒造りを体感する外国人観光客向けの酒蔵見学会が18日、飛騨市古川町の渡辺酒造店で行われた。新型コロナウイルス感染症拡大による休止を経て4年ぶりに再開され、参加者が蔵人の仕事に触れながら日本酒を味わった。

(一川哲志)

米国から20人 飲み比べ堪能

同店は1870年の創業で、153年にわたって酒を造り続ける。創業時に造られた酒を振る舞う際、謡われた謡曲「鶴亀」の一節から酒の銘柄を「蓬萊」と名付けたという。「蓬萊」は代表銘柄として親しまれている。

感染症法上の位置付けが「5類」となり、観光ツアーを企画する海外の旅行会

社から酒蔵見学会開催の問い合わせもあることから、外国人を対象とした有料の酒蔵見学会を再開した。

訪れたのは、米国からの観光客ら20人。酒蔵に入る際にヘアキャップと白衣を身に付け、酒造りに使う米を洗って蒸す作業や仕込みタンクでの発酵の様子などを、同店従業員の説明を受けて見学した。



仕込みタンクでの酒の発酵の様子を見る外国人観光客ら＝飛騨市古川町、渡辺酒造店

続いて、飛騨の酒米「ひだほまれ」で造った純米吟醸酒やにがり酒、焼酎など6種類の酒を飲み比べ

た。
見学した女性は「静かできれいな蔵で、蔵人が真剣な表情で酒造りに取り組

んでいて感動した。辛口もにがり酒も味わい、とてもいい体験をした」と話した。